

### 3 - 5 1983年12月伊豆大島付近の群発地震について

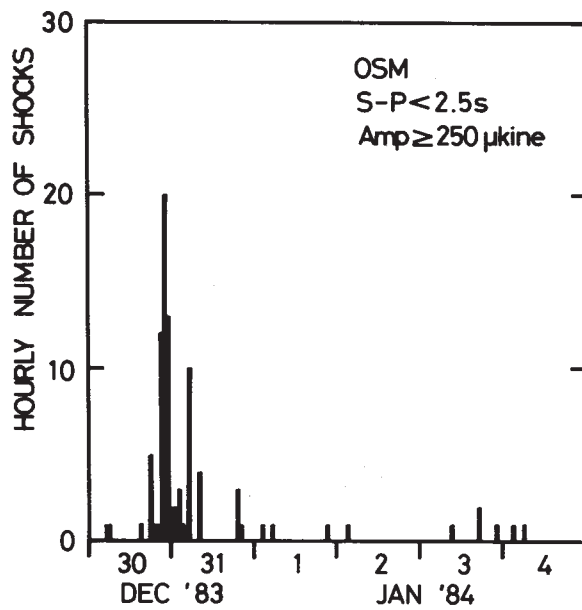
#### The near Ohshima Earthquake Swarm of December, 1983

国立防災科学技術センター  
National Research Center for Disaster Prevention

1983年12月30日から31日にかけて、伊豆大島西岸付近に小規模な群発地震が発生した。活動は翌1984年にも継続したが、1月4日には終熄した（第1図参照）。最大地震は、12月30日21時51分の $M = 3.5$ （気象庁）であった。防災センターの定常的データ処理結果によれば、この地震の震央は北緯 $34.74^\circ$ 、東経 $139.30^\circ$ 、深さは9kmである。群発活動期間を含む8日間の震央分布を第2図に示す。この群発域は、1978年伊豆大島近海地震（ $M = 7.0$ ）の前震の発生域<sup>1),2)</sup>とほぼ一致している。主な地震の発震機構を第3図に示す。主圧縮軸はE-WないしSSE - NNW方向で、地震ごとに若干の相違が認められる。（大竹政和）

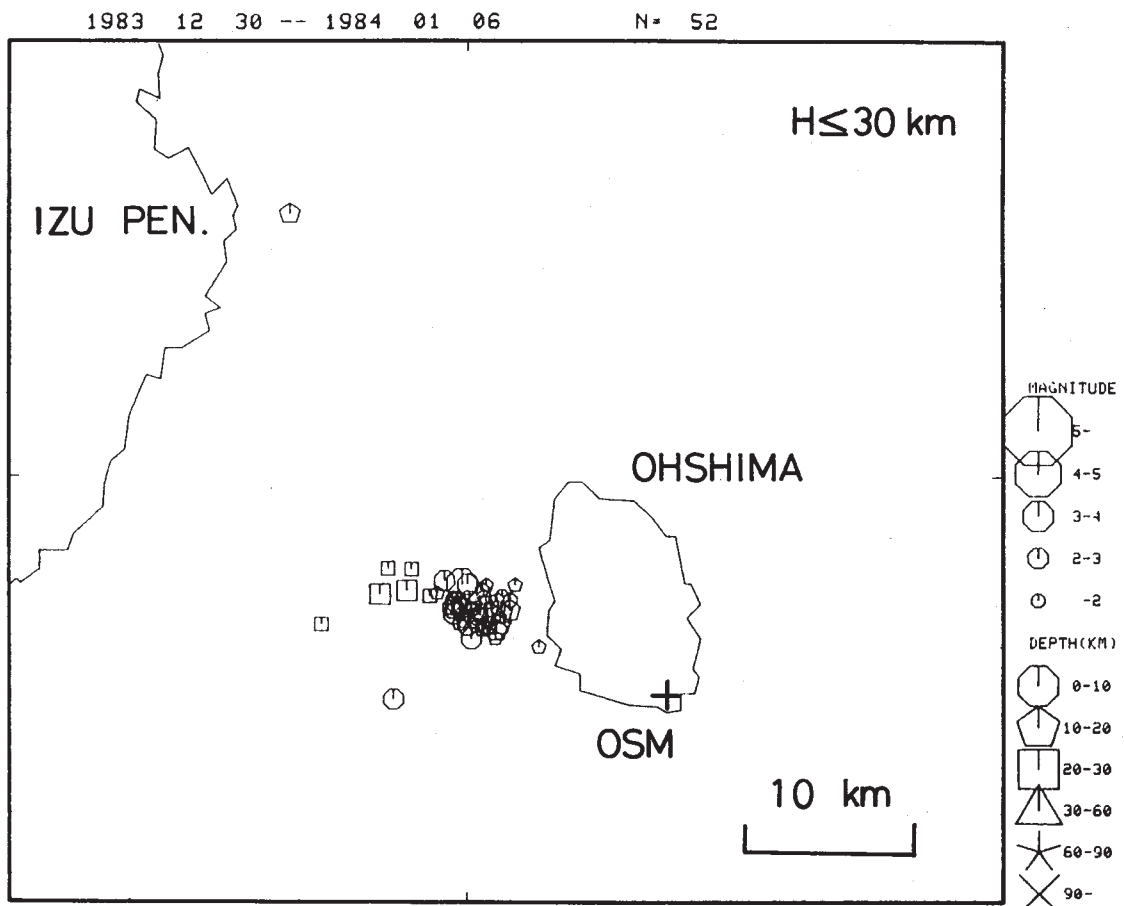
#### 参 考 文 献

- 1) 津村建四朗・唐鎌郁夫・荻野泉, 高橋正義: 1978年伊豆大島近海地震前後の地震活動, 地震研究所彙報, **53** (1978), 675 - 706.
- 2) 地震予知総合研究振興会: 「地殻活動に関する総合調査研究」報告書, 1983, 235pp.



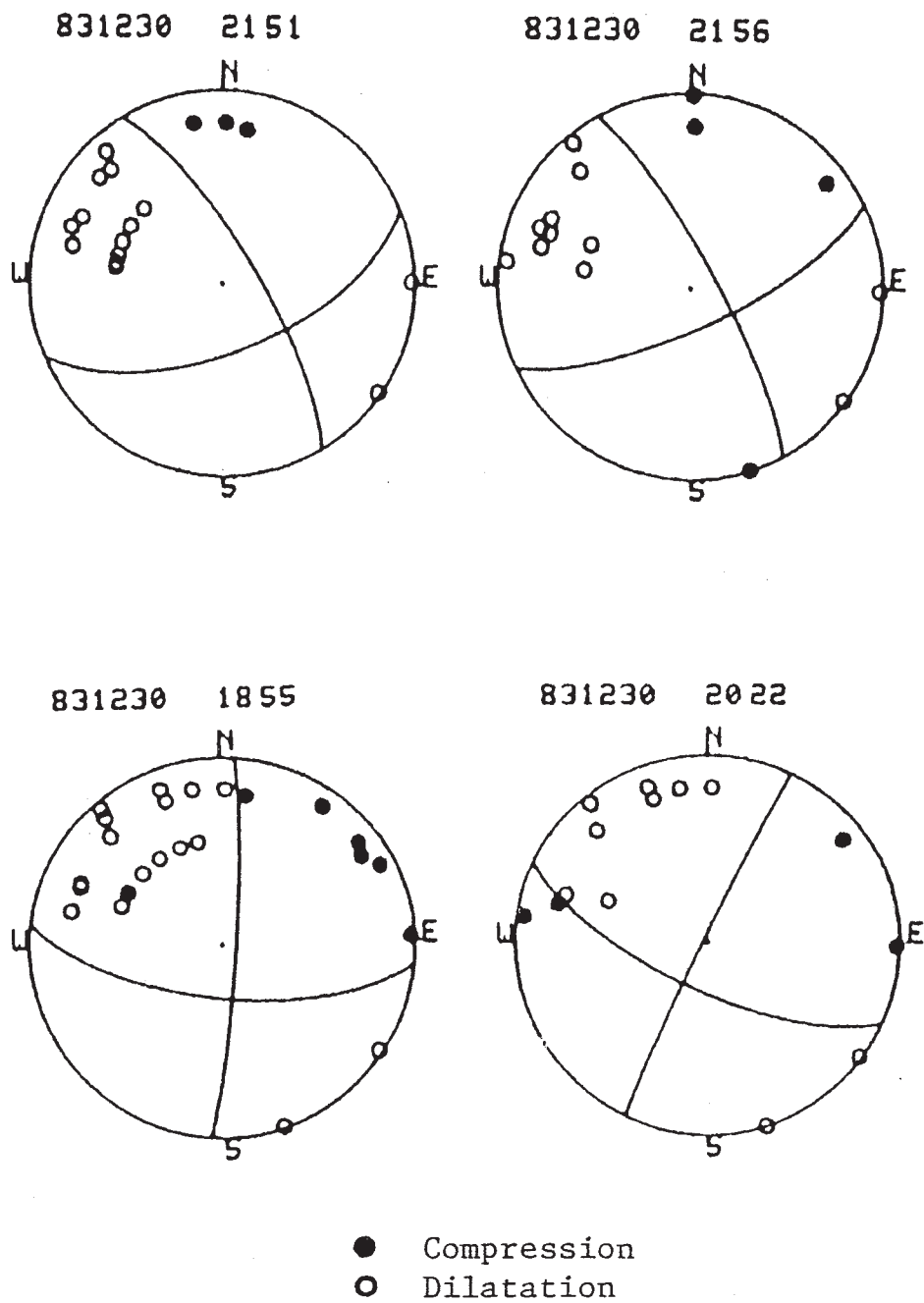
第1図 大島観測点 (OSM) における毎時地震回数 (S - P < 2.5 秒)

Fig. 1 Hourly number of earthquakes at the Ohshima station (OSM) for S-P < 2.5 sec.



第2図 伊豆大島付近の震央分布 (H ≤ 30 km,  
1983年12月30日~84年1月6日)

Fig. 2 Epicentral distribution of shallow earthquakes (H ≤ 30 km) for the period from December 30, 1983 to January 6, 1984.



第3図 主な地震の発震機構（下半球等積投影）。数字はそれぞれの地震の日付及び発生時分を示す。

Fig. 3 Focal mechanisms of major earthquakes (equal area projection on the lower hemisphere). Numerals show the date and time of earthquake occurrence.